

# 議会だより100号に寄せる

議長 小池 和男



議会活動を報告する「議会だより」は、第一〇〇号を迎えました。

昭和60年4月25日に創刊し、第10期の議員により発行されて以来、実に、25年間にわたり議会活動を村民の皆様にお知らせしています。

創刊号から議員が編集をしており、議会を理解して頂くために「議会だより」の発行を継続しています。

歴代の議会議員の皆様にも御礼を申し上げます。これからも議会活動に対してのご指導ご協力を頂きたいと思っております。

議会報告・懇談会も三年目になり、三月予算議会、九月決算議会終了後に、開催して全村を巡ることができました。

各区長様等におかれましては、ご協力ありがとうございました。

「議会報告・懇談会」、「女性団体との懇談会」は、これからも続けていき、「中学生議会」などの意見を、議会活動に生かしていく所存でございます。

現議会には女性議員が居りませんが、生活の一躍を担っている女性の目線も必要と感じています。

議会では、年四回の定例会と臨時会で、住民生活を守る為に審議を行ない、昨年の臨時会では、国の景気対策などの補正があり、五回もの開催でした。

原村の人口は、わずかながら増加しています。「安心・安全で暮らせる村づくり」のために議会は、全力傾注し村民の負託に応えていく所存でございます。

村民の皆さまの相変わらぬご指導、ご鞭撻を願ひして、ご挨拶と致します。

# 100号の発行を祝う

村長 清水 澄



原村議会だよりが100号を数えることになり、大変おめでとうございます。

ひと口に100号と言いますけれど議会だよりの場合は、25年を要する訳で、遙かな時代を感じます。25年前といえば一九八五年です。第10期議会の方々で多分、議会活動を活況化しようという大きな志に燃えての発行であつたろうと思います。

議会活動の様子を住民の方々に知って戴くことは、住民自治の進展という視点で大変重要です。議会というのは特殊社会であり閉鎖社会ですから、議会側から発信しなければ、活動状況を住民に知って戴くことはできません。施策は村長側によつて実施されますから、議会側が発信しなければその施策を実施するに至る審

議内容や経過は住民には解りません。議会が議案審議の中味や一般質問での議論、委員会によつて住民に知らせることで、住民からもフィードバックがあり、住民の関心も高まり、議会活動も活況となります。結果、住民の自治力が高まるのです。加えて近年は、定例議会2回の後に集落に出て議会報告会も行つて戴いています。これも議会だよりと同様の効果があり、そのご努力に感謝するところです。

原村議会では議会だよりの編集作業を議員自らが行っており、発行には多大の労力を要している次第で、そのご苦勞に敬意を表します。今後とも研鑽され、順調に発行されて行くことを願っています。

原村議会がますます発展され、村政が健全に進展することを願つて、私からの100号発行のお祝いと致します。

## 昭和60年創刊号

### 編集後記

より

議会だよりを作つて、村民の皆さんに、議会の動きを知ってもらおうという声は、ずい分前からあつたのだが、仲々難産でした。

経験者もなく、口を使う事は慣れていても、物を書いたりまとめたりは、考えただけでも尻ごみしてしまう。それこそ何回も議論しどうにか発行にこぎつけたのは、何よりも、今日の行革論議の中、議員定数削減論や、地方自治が、財政的に圧迫をうけている中で、議会のあり様を正確に知っていただきたいという熱意が消し難いものであつたからです。

# 中学生議会

村づくりについて、多くの提言を頂く

10月14日、第11回中学生議会が開催された。

3年生11名が質問に立ち、議長は篠原麻衣子さん、猿田直巳君が務めた。事前にしっかりと調査してある質問内容に、議員が答えに窮する場面もあった。

## 【質問件名・発言議員名】

◎原村循環バスについて

岩村 匠 君

◎学校のプールの改装について

野澤 加純さん

◎原村の名物をPR

清水 一志君

◎観光業の発展について

菊池 由莉さん

◎通学路の整備について

五味 菜海さん  
二村 成彦君

◎原中学校校庭のトイレ及び照明灯について

日達 勇紀君

◎原中学校の机と椅子の補充について

堀内 唯衣さん

◎村の図書館の改善について

小林 春菜さん

◎街灯の設置について

川俣 準也君

◎街灯の設置についての関連質問

小林 裕 君



中学生議員

中学生議会で、議長を務められたお二人より、寄稿して頂きましたので掲載します。

## 議長 篠原麻衣子

私は、平成21年度の議長を務めさせて頂きました。私は、議長してこの中学生議会で感じた事がいくつかありました。

その中で私が一番強く感じた事は、私達の提言に議員さん一人一人が真剣に耳を傾けて下さった事です。私達中学生の質問に、納得のいくまで説明をして頂いたり、まだ計画不足だった私達の提言をより現実的にふくらませて頂き、考えて頂いた事を私はとても嬉しく思っています。それに、全ての考えが私達と反対でなく、議員さんと考えが同じものも多くあったので私は、議長席で聞いていてとても嬉しい気持ちでいっぱいでした。

この中学生議会を通じて、私は、もっと原村について沢山知りたいと思いました。

私の考えや私達みんなの考えがより良い方向へ向かってくれると今後の原村の力になっていけると思いました。

それと、私は議長というとても貴重で大切な役が務められた事を心より嬉しく思っています。この体験はこれから先、生きていく中でめったに体験出来る事ではないと思います。私は、議長として議会に参加する事が出来て本当に良かったと思います。私は、とても力不足で当日は何人もの人に支えて頂きました。その方々に本当に感謝をしています。議員のみなさんにも本当に感謝しています。ありがとうございます。

## 議長 猿田 直巳

今回、原村中学生議会の議長を務めさせて頂きました。

とても勉強になりました。特に、本当の議員さんたち

といっしょに議会をするということは初めてだし、多分二度とない事だと思うので、貴重な体験だったと思います。

僕は学校でも生徒総会などで議長をやっています。でも、本当の議会は学校のものより本格的で、全く違っていました。学校では、提案した案はほとんど承認されます。しかし、村議会は、ほとんどが承認されませんでした。議員の方々は、本当に村を考えているんだなと思いました。

僕はこの中学生議会を通して、こういった案を真剣に考えてくださる議員がいてくれるから、原村はきれいな所になっていくんだと思います。今後、この原村をより良い村にできるよう努力したいです。

# 12月定例会

21年第4回定例会は12月8日から18日まで、会期11日間で開催された。

「21年度一般会計補正予算(第7号)」など村長提出議案等8件と議員提出議案6件を審議した。委員会での審査の内容は委員長報告のとおりです。

## ◎職員勤務時間及び休暇等に関する条例の一部改正

(内容) 職員の勤務時間を人事院勧告に準じて7時間45分にするもの。

## ◎原村行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例

(内容) 電子情報通信を用いた行政手続により、地方税の申告を従来の文書による申告とあわせて利用出来るもの。

## ☆賛成討論

・中央公民館の利用仮予約の廃止は、住民の利便性を考えた方向で進むべきであった。  
・本条例において、何が出

※全国瞬時警報システム  
通信衛星と市町村の同報系防災行政無線を利用し、緊急情報を住民に瞬時に伝達するシステム。

## ◎日米地位協定における裁判権放棄の日米密約の公表・廃棄を求める意見書提出

(内容) 政府において、「日米地位協定第17条の運用にかかわる米兵公務外犯罪の第一次裁判権の放棄を確認した日米秘密取決め」を公表し、廃棄することを求めるもの。

## ☆反対討論

・民主党政権で秘密協定の公表をうたっている。故に暫く待つべきである。

## ☆賛成討論

・日米密約の公表について、民主党政権がどこまで出来るのか不明である。

## ◎後期高齢者医療制度の廃止を求める意見書提出

(内容) 後期高齢者医療制度は、75歳以上の高齢者だけを切り離して、①これまで保険料負担のなかった扶養家族を含めて、75歳以上のすべての高齢者から保険料を徴収する。②75歳以上を対象にした別建ての診療報酬(医療保険から医療機関に支払われる医療費)を設定し、高齢者を差別する。③後期高齢者人口割合が増えるにしたがって、保健料が上がっていく仕組みがつくられている。④滞納者には、これまで国保では対象から除外さ

れていた資格証明書を発行し、窓口で医療費全額を負担させる、というものの。  
後期高齢者医療制度を早期に廃止し、老人保健制度に戻すことを求めるもの。

## ☆反対討論

・廃止することには賛成するが、老人保健制度に戻すことには素直に賛成できない。  
これから増えてくる高齢者は、それぞれ相応の負担が必要である。



地域の安全を守る消防団



# 委員会報告

## 総務産業常任委員会

委員長 菊池敏郎

今議会の委員会は、役場の耐震工事で庁舎の周りが囲われた中で審査した。

### ◎職員勤務時間及び休暇等に関する条例の一部改正について

昨年人事院より勤務時間の短縮が勧告されていた。これに基づき来年4月より勤務時間を15分短縮するものである。これにより、役場の閉まるのが5時15分となる。

審議では「時間外勤務を、基本的に6時15分まで休憩してからでない」と認めていない状況を変えないのであれば問題」と疑問も出された。

### ◎行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例制定について

役場に提出する書類を

文書に限定せず、電子情報通信（Eメールと呼ばれる方法等）により行えるようにするものである。審査の中で「全ての手続きが対象となるのに、eLTAxと呼ばれる地方税に限定されると説明したが、条例等でどこに規定があるか」との質問に十分こたえられなかった。

その結果、「施行規則」で限定した事務であることを明記するように変更することになった。

当面、村民税の会社等での特別徴収の報告や固定資産税の一部が対象となる。

申請できる人は、電子認証を受けた人である。今回の条例で、条件を整えば他も対象となる可能性は生まれた。

### ◎平成21年度一般会計補正予算について

役場庁舎の改修経費は、過去に行った耐震診断と来年工事分まで含めおおよそ2億4700万円余となる。

「農地流動化補助金」は、対象面積が増え、480万円余となる。

審査で、水田については、減反達成者だけが対象だが、達成基準について議論された。

文化園で始まったインターネット販売は、今後どのような「原村ブランド」を育てるのか話し合われた。

もみの湯工事の休業補償を支払うことが説明された。

審査では、改修後に、わかりやすい管理手引きの整備と定期点検の必要が指摘された。

### ◎日米地位協定に関わる

『裁判権放棄の日米密約』の公表と廃棄を求める請願について

地位協定では、米軍の

公務外事件の裁判権は、日本にあると決めながら、「第一次裁判権」放棄の日米密約が、アメリカで公表されている。その公表と廃棄を政府に求める内容である。

民主党政権の動向をみるべきとの意見があったが、大切なことであり「採択すべき」と決めた。

### ◎消費税増税をやめ、食料品など生活必需品の消費税非課税を求める陳情について

提出者の説明で「前政権向けの内容」との説明を受け、不公平税制の内容も不明確であるとの理由で「不採択とすべき」と決めた。

### ◎平成22年度商工会事業に対する補助金についての陳情について

会への補助継続と御柱祭関連事業への補助金の新設、通学路の街灯補助の復活を求めるもの。陳情項目の審査の後、不況の影響と対応につい

て意見を交わした。村内企業の倒産を受け、行政も企業を回り、実態をつかむとともに支援策の検討の必要性について話し合った。

### ◎核兵器の廃絶と恒久平和を求める陳情について

説明者から、平和市長会議が提唱する「2020ビジョン」（核兵器廃絶のための緊急行動）の説明を受け「採択すべき」と決めた。



もみの湯改修工事

# 社会文教常任委員会

委員長 小平 雅彦

議案4件、陳情4件を審査した。

☆下水道に生活用品等異物が流されるケースがある。適正な使用が望まれる。

## ◎予防接種健康被害調査委員会条例の一部改正

県の行政組織変更により名称を改めるもの。

## ◎一般会計補正予算

・障害者自立支援法特別対策として、対象施設への支出。

## ◎21年度原村国民健康保険事業勘定特別補正予算

・国民健康保健法の改正にともない、高額介護合算療養費の支給をおこなうもの。

・地域包括センターの介護予防教室臨時職員「理学療法士」の賃金。

☆支給該当世帯は少ないが、

介護、医療の負担軽減につながる制度で評価できるとの意見があった。

## ◎21年度原村下水道会計補正予算

・流域下水道施設改修工事にとりまわす負担金の精算。

☆当面大きな改修は無く、借入金返済も順調に推移しているとの説明があった。

・原村400年誌印刷製本費を100万円増額し、250万円とするもの。

・民俗資料館石綿対策工事については国庫補助金の対象とならず起債に変更するもの等の内容である。☆医療費は増加傾向で地域医療、保健事業の強化のため地域包括支援センター事業の充実強化が必要になっていくとの説明があった。

あった。

☆歴史民俗資料館の改修工事機会に、収蔵品の照合をしてほしい。

☆記念誌は当初予算で内容を明確にすべきであるとの意見があった。

・過去に開村100年誌を発刊した。400年誌は整合性がとれないので名称の検討が必要。

・村史との関連に対する説明の掲載が必要。

・文責、編集者を明確に記載が必要等の要望をした。

## ◎陳情 30人以下学級の早期実現、教職員定員数増を求める意見書提出に関する陳情書

・現行の「40人学級の定員」を「30人以下学級」にするのと同時に、教職員数の大幅増を求めるもの。

☆教職員の適正配置を実施すべきとの意見があった。

◎長野県独自の「30人規模学級」の中学校への拡大を求める意見書提出に関する陳情書

・長野県は独自に小学校の全学年において、県費による「30人規模学級」が実施されているが、中学校においても県独自の「30人規模学級」の拡大を求めるもの。

## ◎後期高齢者医療制度の廃止を求める陳情

・後期高齢者医療制度を廃止し、老人保健制度に戻すもの。

☆後期高齢者医療制度の早

期廃止は賛成だが、老人保健制度への移行は疑問である。

☆老人保健制度は、改革すべき点もあるが「年齢区分」で区切る後期高齢者医療制度とは、根本的に異なる合理的、公平な制度であり賛成。との意見があった。

## ◎市町村国保の改善を求める陳情

・市町村国保料、税の軽減措置の改善、国の負担増、普通調整交付金の増額、国保料、税の上限を協会けんぽ上限並まで引き上げるもの。

## 事務調査報告書

議会報告会・懇談会で出された意見、委員会での課題は事務調査をおこなうとともに、担当課と協議した。

・芳原川河床整備（堆積物の除去等の工事）。

・諏訪インター原村工業団

地村道4277号線沿い樹木のこさ切り。

・保育園未満児棟と既存棟の間、通路の除雪対策は今後の課題である。

・図書館南アカデミーパーク内樹木間伐及び手入れを要望した。

(7) 第100号 はらむら議会だより



# 村長選での公約どう進んだか

小池啓男

## 相当よくやっている



小池 啓男

(質問) 村長選挙で公約した事、どのように進んだか  
「村長」焼却ごみの40%削減など手の付いていないこともあるが、全体としては相当よくやっている。

自立を貫いたことは100点だと思っている。

(質問) 合併しなかった多くの町村から学ぶべき教訓は、自立は標榜するだけでなく、地域経済をどう活性化するかという事を大きな柱としていることだ。

ごみの問題から聞きたい。08年の11月、審議会が生ごみ処理について「自家処理を基本」に、集団処理も検討という答申をだした。

村の世帯数2千843、この内、販売農家数は649戸だ。自家処理が出来ない実態がある。どう具体的に推進す

るのか見えて来ない。

10年までに、生ごみ処理機と廃棄物回収の施設を設置する計画(費用は1億6千万円)があった。これはどうなったのか。

「村長」あの答申が出たので軌道修正した。自家処理にもいろいろ方法があり係のほうで検討している。生ごみの堆肥化については準備も必要。皆の意識がそうならないと難しい。

(質問) 原村産の米粉を使った取組み等が活発だ。農産物の加工施設、販売所をつくる必要がある。20年度地方交付税算定における留保財源・2億3千800万円を地域活性化に活かすべきだ。「村長」産業振興は難しい。加工所の話しは過去につづられた経緯がある。意識が変わって来ているようなので考えたい。

### (その他の質問事項)

○後期高齢者医療 保険料の値上がり額について

## 担い手の育成対策は

小平 雅彦



後継者対策  
配偶者対策を推進する

(質問) 担い手の育成対策は。

「村長」後継者対策、結婚相談事業等担い手対策を総合的に推進して行きたい。

(質問) 景気経済対策は。  
「村長」制度資金の借り入れ限度額の引き上げ等商工会と相談する。

(質問) 学校施設の整備について。

「教育長」ここ数年は耐震強化工事を、小学校においては合わせてリニューアル工事をした。

また、トイレ、給食室等も新設、改修をした。今後は中学校に重点を置いて行く必要がある。

「村長」当面施設整備が必要な事業は、小学校で四、中学校で一三項目ある。計画的に進めて行く。

### (その他の質問事項)

○地域資源活用による地域活性化について

○ビック東海によるLCV子会社化の影響について

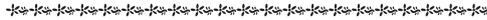
また、室内区の集落行動計画を参考に各区において集落行動計画をたててもらいたい。

(質問) 新年度重点施策に對する考えは。  
「村長」新たな村づくりへの挑戦―子育て支援、生活基盤の整備等。個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現―住民主体の地域づくり、若者定住支援等。安全・安心・安定した地域社会の確立、防災、地域の安全対策等。諏訪地域で埋没せず存在感を出せる村づくりを進める。



## 村内企業の実態調査と 対策を急ぐべき

菊池敏郎



### これから考える

**〔質問〕** 昨年10月からの不況は、実体経済を伴わない取引の破たんが原因であるところだが、中小業者の経営が悪いのは自己責任だと思われ、深刻になっている。

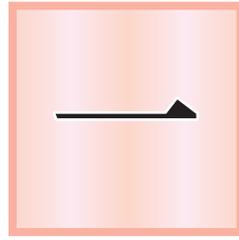
9月議会では、否定的だった返済延長を含めた制度資金の改善を求める。

また、村内業者の実態調査を行い「仕事探し」も含め緊急に取り組むべきと考える。

**〔村長〕** 実態調査は、行っておらず、制度資金の改善も今後商工会と相談する。商工業者の厳しさが分かっているのが実情だ。

**〔質問〕** 厳しい農家経営改善に向け、JA、産地仲買人の意見を聞き、原村農業の方向を検討すべきと考える。

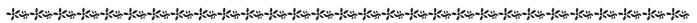
**〔村長〕** 販売はJA中心となるが、仲買人とも懇談の機会があれば対応する。原村で生産されている農産物の品目別の集荷状況は、わからない。今後調べて対応する。



## 御柱祭関係の予算編成は

木下貞彦

### 商工会棧敷設置への補助 曳行収録ビデオ制作が主



**〔質問〕** 家族状況の変化から、高齢者世帯が増え、国民年金で入所できる施設が望まれているが

**〔課長〕** 施設によっては、国民年金だけでは入所できない。

国の政策転換がないと行政運営の施設は作りにくい状況だ。

**〔質問〕** 来年度予算編成で御柱関連は、学校は休校になるか。

**〔村長〕** 商工会の棧敷設置への補助、サラダチャンネルが曳行収録のビデオを製作し頒布する。小宮祭も観光客を区が受け入れてくれれば考えていきたい。

**〔課長〕** 御柱出発の地として、文化園と協力して御柱ツアーを計画したい。原村PRの絶好期ととらえている。

**〔教育長〕** 入学式は遅くなるが、休みになる。

**〔質問〕** 第4次総合計画の見直し、更新は。活力ある村づくりには何が必要か。

**〔室長〕** 19年度は第2子以降の保育料の負担軽減。20年度は病児保育、子育て支援事業の職員体制の充実、保育広域入所対策。21年度



は地域公共交通相互連携計画などである。

**〔村長〕** まずは各区で集落行動計画を作って取り組んでみる必要がある。

**〔質問〕** AEDの設置場所と、管理状況は。

**〔署長〕** 設置個所は村の施設で、福祉センター、小、中学校、社会体育館、役場、樅の木荘、自然文化園、一般で中新田診療所、実践大学校、JA原村店、三井の森管理センターである。保守点検は管理者が行うことになっている。



## リサイクルセンターの 建設は問題がある

長谷川 寛

### リサイクルセンターは 最小の規模を考えている



(質問) 諏訪南のごみ処理基本計画の中で、「リサイクルセンターの整備が急務となっている。」とあるが、その内容を検証しないで造ることが前提になることを危惧する。再資源化の問題は、家庭での分別を徹底し

てやるのが、コストもかからないし、意識の上でも重要だと思う。三市町村それぞれやり方があるのではないか。

「村長」リサイクルセンターに対する認識の問題になる。諏訪南は最小のやり方で仕事をすると聞いた。粗大ごみの破碎と資源物の圧縮梱包だけなので現在と同じ経費で出来るように考えている。

(質問) リサイクルセンターという言葉が決まって、受け取り方とか細部がどのように決まるか、住民や議会の目から遠いところになることも危惧している。この計画案が決まるのにどのような手続きをするのか。

「村長」議会、住民のパブリックコメントを求め、検討修正して、3首長が承認する形をとる。計画に書いてあるから何を作っても自由とはならない。

(質問) 公共交通の試案が2つ示されたが、どのよう

## 地区公民館の新改築の補助増額を

### 公民館補助規定のみ

日達 徳吉



な方向で行くのか。

「村長」路線バスについて諏訪バスは、美濃戸直行便だけとする考えだった。

原村として、是非村内に乗り入れる路線を残すよう要望し、再検討となっている。

### (その他の質問事項)

○美濃戸線の停留所を、大久保、柳沢、北上里、農場など作ることは可能か。

(質問) 来年度予算編成に当り重点課題の中に、集落行動計画を考えているようだが、活動する拠点になる公民館の役目は重要だ。人口が増え増改築や耐震等新築が必要な区がある。コミュニティ事業で県、国

から補助金がもらえないか、村からの単独補助金を増やせないか。

「村長」国、県の補助金はない。コミュニティ事業(宝くじ)の助成金が有る。コミュニティセンター建築の助成金は、最高で1千500万である。村からの補助金は、事業費の5分の1、最高600万円となっている。増築、改築については相談にのりたい。

(質問) 65歳以上に行っている季節型インフルエンザワクチンの接種費助成を乳

幼児にも広げてはどうか。65歳以上の季節型インフルエンザの接種状況は。「課長」20年度の65歳以上の接種状況は対象者1966人中1104人で、56.2%になっている。1歳から12歳まで季節型インフルエンザ予防接種への補助をしたい。



## 家庭用消火器の 安全確認は

小池 利 治

広報等で指導する



(質問) 岡谷塩嶺病院心臓血管外科が来年の三月で休止するという話が大きな問題になっている。心臓血管外科では有名であり、ここに助けられたという人達は原村にもいる。こうした病院がなくなるといふ事になれば、心臓患者の皆さんの心配は大きい。岡谷市だけの問題ではなく、原村はもとより六市町村一体になって、この岡谷市塩嶺病院心臓血管外科の休止問題に取り組んでほしい。

「村長」諏訪地域市町村長も、口頭で存続するよう話しかけている。

(質問) 道路側溝の中が、木の葉や土砂で用をなさない所がかなり見受けられる。例えばエコーラインより東の林の中、また広河原道等。人手がなければ作業員を雇えば、緊急雇用対策としても有効なのではないか。

「村長」目立つ所はやっている。やってもらいたいと気がついた人は、建設課に連絡してもらいたい。

「課長」職員でできない所は委託している。

(質問) 家庭用の消火器の設置場所が悪いために、底が腐食するなど不具合が生じて事故が起きている。消火器の使用期限なども含めて消防団で確認できないか。

「署長」プライバシーの問題があるので、各家庭の設置場所を見て歩くのはむずかしい。広報等で消火器の適正管理、不用消火器の廃棄方法等について指導したい。

## 原村が財政出動して景気浮揚策を

矢島 昌彦

### 国が景気対策として

### 財政出動する分はやる



(質問) 「30億円規模の予算編成はできない。見直す」といわれたが、どこか。職員数は8割としていたが。

「村長」去年は36億を超えた。しかし、どこにも予算に無駄はない。三位一体の改革が続いているとしたら30億で達成しなければ村政は持たない。民主党政権に代わり、地域主権と言って。地方交付税はやや回復するかと見通している。職員の削減目標は持ち、現在の村財政の骨格は変えずに行きたい。

(質問) 固定資産税の全戸調査をし、公平でなければいけない徴税事務の事故があった。職員の配置数によるものなのか、二度と起こらない体制になったか。

「村長」少ない人数でやっているから起きた事故だとはいえない。職員体制ではない。

(質問) 今の経済は最悪の状況にある。2億円の財政出動して、中学校の改修を前倒しで行い、景気浮揚を。

「村長」中学校の改修が、村内業者で請け負えるかどうか。教育施設を村の真水の予算でやるのではなく、国が景気対策として財政出動すれば、原村に割り当てられた分に見合う分は前倒

ししてやっていく。

(質問) 観光協会の会員の減少で事務局維持や事業運営が厳しくなっている。

「村長」会員数が減るのは一番問題だ。窮状はよくわかった。

(質問) 八ヶ岳観光圏の今時点での構想は。採択に向けて原村では草原や山野草園の観光資源の構築を。

「村長」北杜・富士見・原で連携して、周遊する宿泊旅行も含めた観光のソフト事業を中心に進めている。草原化は実践大学の耕地で面積を確保して、22年に予算化しようと考えている。



# 臨時議会

平成21年第4回臨時会は10月8日に開催された。

平成21年第5回臨時会は11月27日に開催された。

「平成21・22年度役場庁舎耐震改修工事請負契約の締結」についてを審議した。

## ◎役場庁舎耐震改修工事請負契約の締結

(内容) 役場庁舎は、昭和46年に建設され、今日に至っている。平成18年に耐震精密診断を実施した。結果は、耐震性能を示す構造耐震指数Is値が目標値である0.9を満足せず、補強の必要性があると診断された。

国庫支出金を受けて、2カ年にわたり改修工事を行なうもの。契約額は1億8千375万円。

《全会一致で可決》

「平成21年度一般会計補正予算(第5号) 専決処分の承認」、他9件の議案について審議した。

《全会一致で可決》

## ◎21年度一般会計補正予算(第5号)

(内容) 新型インフルエンザワクチン接種の補助(優先接種者への一回目の費用3千600円を補助)を含め1千86万9千円などを追加するもの。(補助について議会が提案した。)

## ☆賛成討論

・村が独自施策をとるについて、村民への通知方法の工夫を。

◎特別職の職員で常勤の者等の給与に関する条例の一部改正

(内容) 人事院勧告に準じて、年間の期末手当を0.25ヶ月分減額するもの。  
◎議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正  
(内容) 人事院勧告に準じて、年間の期末手当を0.25ヶ月分減額するもの。

## ◎一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正

(内容) 人事院勧告に準じて、期末勤勉手当を年間0.35ヶ月分減額。また月給与を平均0.18%引き下げる。

住居手当で、新築・購入後5年(世帯主に限る)の手当ての廃止。

月60時間を越える超過勤務に係る超過勤務手当の支給割合を引き上げ、支給に代えて超過勤務代休時間を指定することができる制度の新設。

## ☆賛成討論

・職員給与等の減額により、村内の可処分所得が4千818万円の影響を受け

る。「公務員給与の引き下げ↓民間給与の引き下げ」と経済が負のスパイラルに入ってしまった。景気対策としては本来すべきでないが、職員が認めたからにはしぶしぶ賛成する。

◎21年度一般会計補正予算(第6号) 他5件の補正予算に関する議案について  
(内容) 一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正を受けて、職員給料・職員手当などを変更するもの。



庁舎工事

# 一部事務組合議会報告

## 諏訪中央病院組合

8月定例会が8月18日に開催され、平成20年度各決算案などの提出があり、全議案を全会一致でそれぞれ可決、認定された。

病院利用患者数は、入院が11万911人で834人減、外来は18万1千939人で4千312人の減（ともに前年度比）となり、赤字会計は4年連続で未処理欠損金は8億5千700万円余となった。昨年度は職員数の増加による給与増を収益でカバーできなかったことも大きな要因となっている。病院では「総務省の公立病院改革ガイドライン」に沿って改革プランを策定し、今後3年以内の黒字化を目指している。

介護老人保健施設「やすらぎの丘」と看護専門学校の特例会計決算案も全会一致で認定した。

## 諏訪南行政事務組合

9月25日定例議会が開かれた。決算状況は、別表の通り。8月被災の「静香苑」も順調に復旧が進んでいた。

諏訪中央病院組合平成20年度会計決算

(単位：千円)

	収入	支出	差引額
病院事業	6,421,134	6,953,020	△531,885
やすらぎの丘	420,912	409,031	11,880
看護専門学校	139,798	133,470	6,328

諏訪南行政事務組合平成20年度会計決算

(単位：千円)

会計別	歳入決算額	歳出決算額	差引残額	備考
一般会計	65,577	57,476	8,081	原村分担金 4,790
ごみ処理特別会計	756,040	684,032	72,007	〃 78,387
灰溶融炉施設特別会計	23,889	12,975	10,914	

## 南諏衛生施設組合

9月29日昨年の決算審査中心の議会が開かれた。決算は、全会一致で可決された。歳入は、3億6100万円余りで、歳出は、2億9200万円余であった。

南諏衛生施設組合平成20年度会計決算

(単位：千円)

科目	金額
し尿処理費	79,174
ごみ運搬費	35,327
粗大ごみ処理費	89,324
埋立処分場管理費	16,044
借入金返済	69,776
うち原村負担分 (1人当約1万円)	76,263

主な事業内訳と原村負担金は、別表の通りである。

## 諏訪広域連合

10月1、2日、諏訪市役所議場で開催された。9件の議案を審議し、全て全会一致にて決定された。

◎21年度諏訪広域連合消防特別会計補正予算、岡谷消防署に高規格救急車を整備するもの。

◎各決算状況は別表の通り

諏訪広域連合平成20年度会計決算

(単位：千円)

	歳入	歳出	差引額	
一般会計	189,411	159,411	30,000	
特別会計	恋月荘	390,278	316,952	73,325
	八ヶ岳寮	401,345	379,774	21,570
	介護保険	12,485,187	12,179,392	305,795
	広域消防	2,342,318	2,147,564	194,753
ふるさと市町村基金	24,605	13,531	11,074	

## 視察報告

☆南諏衛生施設組合議会で11月5日～6日に、視察が行われた。

視察場所は愛知県尾張旭市の尾張東部衛生組合晴丘センターと愛知県豊橋市豊橋市資源化センターの二カ所であった。

☆諏訪中央病院組合議会で、11月25日～26日に東京で開催された、自治体病院全国大会「地域医療再生フォーラム」及び経営セミナー「黒字病院に学ぶ経営テクニク」に参加した。

この研修視察には、濱口病院長始め幹部職員他、各行政の担当者も同行した。

# 総務産業常任委員会 視察報告

委員長 菊池敏郎

11月4日から3日間、長野県栄村、白馬村、新潟県川口町及び聖籠町の先進的な行政施策について視察した。

栄村では、「公共交通と農産物の独自販売」について聞いた。

役場を中心に3方向に広がり、中心部に診療所、駅、商店街などが集中している。以前は村直営と民間会社2路線の計3路線だったが、

利用者の減少から維持が大変となった。

検討の結果、2地域は県の補助金によるデマンド方式（9人と14人）で、地域のタクシー会社で、月曜日から金曜日まで運行されていた。代金は、300円である。

住民からは、「毎回の予約が面倒」などの不満があるようだった。

農産物は、いろいろな努力の結果がみえた。農業委員会が中心となり、各地に視察に出かけ遊休農地活用を目的に取り組んでいた。

山菜の販売などは、農家の努力により切り開いてきた。ネマガリタケは、荒廃地対策で始まったとのことだった。

ールの旗が各所に掲げられ「ありがとう」の文字が書かれていた。

「5年間で復旧は完了し、今後は復興だ」と役場の方の話だった。

地震の時には、電話も電気も防災無線すら使えず、役場では被災状況を全くつかめず、翌日職員が歩き、まさに見聞きした情報しかなかったようだ。

避難生活では、集落の支え合いが最も機能したと話されていた。

備蓄は何もなかったが、幸い食料（コメの収穫直後）と水（湧水）があったため助かった、備蓄は流通備蓄を考えることが大切と話された。

備蓄するならば、発電機でしようと話された。集団移住した地域などを案内していただき、想像を絶するご苦労があったのではないかと感じた。

新潟県聖籠町では「防災体制と自立のまちづくり」について視察した。

聖籠町は、新潟市の隣町

で、東北電力の火力発電所や石油備蓄場がある工業団地には、100社くらい進出している。地方交付税の交付されていない町だった。

30年くらい前に新潟地震に見舞われた町で、防災無線が整備されており、屋外37局個別受信機3千400台余りが整備されていた。放送は、行政からの連絡のみに使っていた。

地域の防災組織は、37あり区長が防災リーダーとなっていた。

合併については、集落説明会の後のアンケートで78%が合併しないと回答し、自立を決めた。3歳以上児全員が入る幼稚園は、通常保育は無料だった。循環バスは、100円で、75歳以上の方は、無料だった。

白馬村では、一般社団法人白馬村観光局の職員から説明を受けた。

5年前に観光連盟を改組し行政と宿泊業などの観光業者622の会員で組織する観光局が、観光施策に取り組んでいる。予算は1億2千

万円、内村補助が8千万円だった。白馬村の8割の人が観光事業に関係していると聞きびっくりした。観光客は平成4年をピークに減り続けていた。

観光局では「昔は、つくり上がった商品を売ってきたが、今は客から要求されたものを提供する」ことが大切と取り組んでいた。

外国人向けに、「日本文化体験」としてそば打ち、和服、折り紙などを提供し好評のようだ。また、白馬発で、善光寺ツアーなど日本を体験できる企画もあった。

観光に結び付くあらゆる事業に、村民の協力を得て取り組んでいる姿がよくわかった。



地震でずれた石碑（川口町）

# 報

# 告

# 視

# 察

## 社会文教常任委員会 視察報告

委員長 小平雅彦

10月27日～29日

水系の汚染防止に万全対策をとっている廃棄物最終処分場

### 滋賀県彦根市

(彦根犬山上広域行政事務組合)

焼却灰中のダイオキシンの影響が大きな社会的問題となってきた平成5年、廃棄物焼却場からの焼却灰を埋めたて処分しないこととし、一般廃棄物に限定した施設として平成10年「中山投棄場」が建設された。

水系は琵琶湖に注ぎ、滋賀県、京都、大阪の上水道に利用されていることから、水系に影響を与えない綿密な設計がなされている。

特徴として、埋立てたごみの層を通過した雨水が処分場から漏水しない構造とし高密度遮水シートを二重に敷設し、浸出水は処理施設でダイオキシン、水銀等の重金属、農薬等の有毒物質の分解除去の徹底を図る施設となっている。

処理水は管理棟近くのため池に入り、池には錦鯉が泳ぎ鴨が遊んでいた。河川の上流域である原村、諏訪

湖を控えた諏訪地域も条件は同様で環境に配慮したごみ処理対策として参考となるものである。

### みんなで創る理想郷、農業・環境を機軸としたまちづくり

福井県池田町

平成14年、町民100人によるパートナー会議を立ち上げ、「ふるさとの環境をいかに守り伝えるか」「自分たちで出来ることは何か」を話し合い、町づくりのプランをまとめた。

このプランを基に平成15年「池田町環境向上基本計画」が策定された。

自助、共助、公助の役割分担を明確化し「人と自然心がけようエコトピア」づくりを目指し生ごみの堆肥化、食のUターン、エコポイント作戦、水資源を守る運動と事業を進めている。

こうした運動と実践活動の結果、平成18年のごみ排出量は町民一人当たり一日467gで県平均の50%以下、リサイクル率は49%で県平均の19%を上回っている。

人口の減少、高齢化の進む山間の町で水と土、自然環境を守り、生ごみの資源化により循環型社会の確立、農産物の直売等農業生産の拡大による地域活性化を図り、真に「人と自然、心がかよう理想郷」を目指した町づくりを実践している。説明をして頂いた町職員の様子から、まちづくりの原点は町職員の創造力、企画力、行動力に有るのではないかと感じた。

### 農事組合法人 モクモク手づくりファーム

### 三重県伊賀市

畜産経営が厳しさを増す昭和63年、豚肉の付加価値販売をねらいとして、養豚農家により設立された。体験型農業を取り入れる等事業が拡大全国でも注目される農業法人となっている。

事業の概要は、ハム、ウインナー、ビール、ミルク工房、レストラン、体験型宿泊、農産物直売、温泉、菓子工房等多岐に亘り、売り上げは約44億円となっている。

「食、農、地域、人」を土台に据えた取り組みが、消費者や地域の人々に共感を与え、経営の拡大、地域の活性化に結びついている。原村においても素晴らしい自然環境、交通立地を活かし、農業生産の付加価値化、ブランド化を進める参考事例となるものと考えます。

### 「訂正のお知らせ」

議会だより第99号

(11月10日発行)

11ページ1段目18行  
誤「山梨大学」  
正「山梨学院大学」

お詫びして、訂正させていただきます。

# 議会日誌

10月	9日	第4回原村議会臨時会	14日	やすらぎの丘20周年記念式	6日	北海道中富良野町議会視察来村
	14日	環境保全審議会	17日	神奈川県海老名市議会視察来村	12日	諏訪郡町村議会議員研修会
	15日	第11回中学生議会	20日	諏訪地区議会議長会	14日	諏訪郡町議会議員研修会
	17日	第20回東京・大阪間沿線経済団体リニア中央エクスプレス早期建設促進大会	25日	諏訪中央病院組合議会視察	16日	新酒醸造視察
	20日	諏訪圏工業メッセ	25日	社会文教常任委員会と教育委員会との懇談会	17日	八ヶ岳エコーライン開通式
	21日	地域づくり全国交流会	27日	原村女性団体連絡協会との懇談会	25日	議会だより編集委員会
	26日	埼玉県富士見市議会視察来村		第5回原村議会臨時会		
	27日	議会報告・懇談会				
	29日	議会全員協議会	12月	環境保全審議会		
	30日	社会文教常任委員会視察研修	2日	原村水田農業推進協議会幹事会・総会		
11月	2日	会視察研修	3日	議会運営委員会		
	4日	原村表彰式	4日	議会運営委員会		
	4日	総務産業常任委員会視察研修	8日	第4回議会定例会		
	4日	愛知県豊川市議会視察来村	14日	富士見高原病院運営委員会		
	5日	諏訪南行政事務組合議会視察	16日	新酒醸造視察		
	6日	諏訪南行政事務組合議会視察	17日	八ヶ岳エコーライン開通式		

1月	3日	原村成人式
	6日	新年賀詞交歓会
	10日	原村消防団出初式
	15日	諏訪消防協会新年会

議長交際費	平成21年7月より12月まで
期日	7月6日
金額	3,000円
内容	国民平和行進激励金

## 代表監査委員が替わりました

ごくろう様でした

森山 清元さん

原村中新田

6年9ヶ月在職

よろしくお願いします

荒木 桂男さん

原村柏木

平成22年1月から4年間

## 「みなさまの声」をお寄せ下さい

お気軽にご意見・ご要望をお聞かせ下さい。  
お寄せいただいたご意見は、要約して掲載させていただきます。

お問い合わせは、議会だより編集委員会へ

TEL・FAX: 79-7951

E-mail: gisen01@vill.hara.nagano.jp

## 編集後記

昨年は、政権交代、そして事業仕分と何かと話題の多い年でもありました。また経済不況の影響を受け、身近な所でも会社の倒産があり大変残念でした。

今年7年に1度の御柱祭、この便りが届くころには曳行担当が決まり盛り上がっていると思います。山の神様にあやかり、景気浮揚、災害のない良い年を願いたいものです。

諸先輩のご尽力があり100号を発行することができました。これよりなお一層、親しみやすい、紙面づくりにしてまいりますので、ご愛読のほどよろしくお願いいたします。

(木下 貞彦 記)

### 編集委員会

委員長	五味 武雄
副委員長	長谷川 寛
委員	小池 啓男
同	菊池 敏郎
同	小池 利治
同	木下 貞彦